

資料紹介—^{そがなべこだに}曾我・鍋子谷遺跡

はじめに

遺物を採集した新池は加古川の東岸、滝野町曾我字鍋子に位置し、西脇市高松町と加東郡社町吉馬に挟まれた谷部にあたり、下流から新池・中池・上池が築かれている。

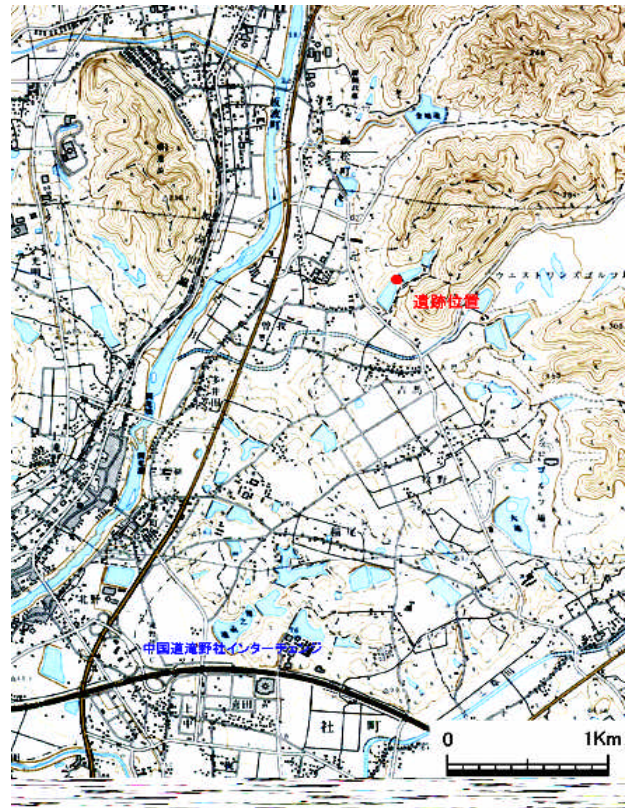
この池の周辺部は東播北部古窯址群鍋子支群として、奈良時代～平安時代に至る須恵器の窯跡が20基あまりが知られており、現在でも陶土が溶けだしているらしく山池にも関わらず池水は白濁している。

今回ナイフを採集したのは中池の用水が新池に流れ込んだ部分で、池底に二次堆積した土砂内である。この池底や汀付近では従来より須恵器の採集はされているが、石器はこの1点のみである。

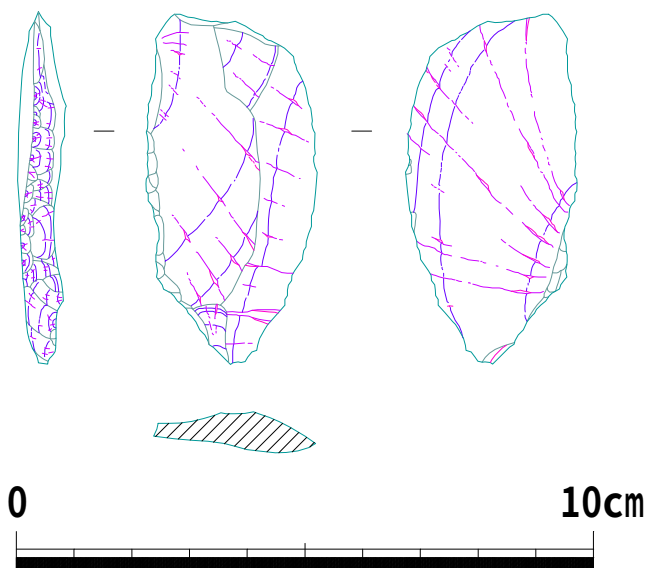
遺物の概要

サヌカイトを素材とした1側縁加工のナイフ形石器で、長さ6.0cm、幅2.9cm、厚さ0.8cm、重さ15.2gである。素材となったサヌカイト表面を観察すると風化面の肌理が細かく、肉眼観察の所見ではあるが、二上山周辺がこの素材の原産地である可能性が高い。

背面には、石核素材面（ポジ面）が残されているので、大形の剥片を素材とした石核から、ナイフ形石器に仕上げるための剥片を剥離したと考えられる。細部加工は1側縁のみに認められ、基部



国土地理院 1/25000 西脇使用



遺物写真

遺物実測図

側は背面側から、その他は腹面側からの加工となっている。背面には、2枚の前段の剥離面（ネガ面）が残されている。

これらの特徴から正確な年代は決定できないが、瀬戸内技法が盛行していたA T（始良丹沢火山灰）層上位、すなわち2万5千年以降のものであると考えられる。

まとめ

加東郡内で旧石器が確認されたのは初見である。従来、加東郡滝野町・加西市・小野市域に広がる加古川西岸の青野ヶ原台地上には、鶴池遺跡などが知られてきたが、加古川東岸にも旧石器時代の遺跡が確認された意味は大きい。

遺物の概要及び遺物実測原図は
兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調
査事務所 山本 誠氏に依頼しま
した。